

実入りなし。いつつづれてもおかしくない コロナ対策懇談会で観光関連団体などが訴え

7日、鶴の浜温泉組合、大湯観光協会、大湯商工会などの代表と大湯区在住の小山洋子、ストラットン恵美子、山田忠晴市議、大湯区で営業している上野公悦市議の4人の懇談会が大湯商工会館で行われ、私も傍聴させてもらいました。参加者は10人でした。

懇談会では、4人の市議を代表して上野市議が、「新型コロナウイルスで大きな影響をこうむっている現状をつぶさに教えていただき、皆さんと力を合わせ、暮らしと営業を守っていききたい」と挨拶しました。
その後、参加者からは、

● 実入りが全然ない。企画を打つこともできない。子どもが来ないと仕事にならない。いつつづれてもおかしくない状況だ。

● (申請しても)ともかく遅い。もっとスピード感がほしい。

● 6月まで休館する。浜茶屋を建てるかどうか、見込みがたたない。鶴の浜温泉まつりなど夏場のイベントはすべて中止した。花火だけでは160万円の補助金は出せないと市はいうが、来年のことを考えたら花火だけでもやりたい。市はもっと柔軟に対応してもらいたい。

● キャンプ場、アスレチックで年間約400万円の収入があった。一昨年からキャンプ場ブームが起きているが、ともすると(今年は)営業できないかもしれない。

● 静岡県西伊豆町、加賀市では真水の交付金などを出している。こういうものがほしい。

● 鶴の浜温泉は長野県のお客さんが多い。できれば、上越市の方から『今は来ないでください』と言ってほしい。がまんしているところがバカをみないようしてもらいたい。

● 個人事業者はギリギリのところまできている。会社と同じように見て(扱って)ほしい。

● (新型コロナウイルス問題が)終わった後、どう盛り上げていくか、議会でも調整してもらいたい。

● などの要望が相次ぎました。



参加団体から

の訴えを聞いた後、まとめをした上野議員は、「みなさんが我慢に我慢を重ね、頑張っておられることがよくわかった。(助成金などは)1回こっきりではだめ、返さなくてもいいお金を2回、3回と出していくことが必要だと感じた。みなさんから寄せられた要望、つぶさに市長に報告し、議会では超党派で取り組んでいきたい」とのべていました。

6月議会を前に、私も、新型コロナウイルスの影響などを調査して議会にのぞみたいと思っています。「新型コロナウイルス問題、こんなことで困っている」「こういうことをしてほしい」などの声を遠慮なくお寄せ下さい。

新型コロナウイルスで特別委員会

4日は午後から各派代表者会議でした。1日の会議に続く2回目です。会議では、議会人事を正式決定する臨時議会を12日に行うことを確認した後、各常任委員会の委員配置、正副委員長の選考などについて協議しました。

協議の結果、すべての委員会の委員配置、正副委員長が内定しました。改選後の議員は新人が多いこともあって、2期目以上の議員のほとんどが役職に着く形となりました。具体的な議

【モッコウバラ】再掲。中国原産のバラ。漢字で「木香薔薇」と書きます。常緑つる性低木。トゲはありません。花は白が淡い黄色で、一重咲きと八重咲きがあります。いまが花盛りです。花言葉は「あなたにふさわしい人」「純潔」。5月5日、板倉区にて撮影しました。

員名は12日に正式決定後、明らかにします。

特別委員会については、災害対策特別委員会と新型コロナウイルス調査対策特別委員会の2つを先行させ、人口減少問題などを議論する特別委員会については、もう少し時間をかけて決めていくことにしました。

このうち新型コロナウイルス調査対策特別委員会については、この重大性から「全議員参加の特別委員会にしたかどうか」「どういうふうにして全議員の英知を結集するか」などの発言が相次ぎ、最終的には、すべての会派から9人、会派に属していない3人の議員を入れ、合計12人の議員が構成員となることになりました。私は32人の議員参加を主張したのですが、協議の結果、12人体制案に賛成しました。

各会派の努力が必要ですが、一応、全会派、全無所属議員の声を結集できる体制となったからです。

(写真はウワミスザクラ)



はしづめ法一の活動レポート

No.1958 2020.5.10
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

 橋爪法一 検索

春よ来い 第六〇五回 一本の桜の木が…

一本の桜の木が落ち込んでいた一人の人間を励ました。それを機会に、その人は見事に復活していく……。そんな話を聞けば、その木を見てみたくなりますよね。

二年前、上越市で「全国さくらシンポジウム」が開催され、そこで記念講演をされたのは三遊亭白鳥さんでした。上越市高田出身の落語家です。講演では、高田の町の今昔、桜の魅力などを方言をまじえて語ってくださったのですが、しゃべりは創作落語風で、爆笑に次ぐ爆笑でした。

その話の中で一本の桜の木のことが出てきたのです。私の記憶だけを頼りに紹介しますと、大筋は次のような内容でした。

嘶家としての仕事がかうまくいかなかった、高田の町に帰ったとき、岡田橋のたもとにある大きな桜の木のところまで酒をいっぱい飲んで酔っ払った。どうしたらいいのかわかなくて泣いた。酔いがまわって眠り、夢をみたのだらうか、桜の木の根元のところから、ぶわーっと風が巻き起こり、花びらがばあーっと舞うところを見た。そして、どこからか、「がんばれー」という声が聞こえてきたのだった。ふと、目を覚ますと、桜は散ることなく木の枝についていた。だが、不思議なことに、酒の入ったコップのなかには花びらが浮いていた。

数日後、私は、話の中に出てきた桜の木を見に出かけました。場所は高田の西城町、市道岡島一ノ辻線岡田橋のすぐそばでした。すでに桜は散っていましたが、一目で「この木だ」と思いました。実に堂々と立っていて、美しい桜の木だったからです。

桜の木はソメイヨシノで、おそろしく五〇年は経っているものと思われれます。地面からは、ねじれるような形で幹がいくつにも分かれ、幹の高さは四層からありました。枝は南の方に約一〇呎、東の方へも一〇呎ほど広がっていました。東の方へ伸びた枝

は三本あって、その一部は青田川の近くまで低く伸びていました。

木に触ってみると、木というよりは石に近かったですね。がちがちに固く、そしてごつごつしていました。

この木の地面から一呎くらいのところには、すでに散った花びらがたまっていました。それを見たとき、白鳥さんが夢で見たという、「花びらがばあーっと舞う」場面をイメージできました。夢の中でも、きつと、ここにたまっていた花びらが舞ったにちがいない、そう思ったのです。

ただ、白鳥さんの話では、酔っ払って夢を見たとき、桜の木にはまだ花がまだいっぱいについていたということでした。私は、満開のときにもう一度、見てみたいと思いました。

その思いは今年の四月三日、ようやく実現しました。

直江津の三八市での宣伝を終えて、岡田橋のそばまで行ったとき、満開となったその木の美しさに私は圧倒されました。

やはり、満開のときはちがいます。青空の下で大きく広がった桜の花はボリューム満点でした。黒い幹と薄いピンクの花の絶妙な組み合わせは見るものをぐいぐい惹きつけます。小鳥たちのさえずり、風の音も心地よく伝わってきました。

白鳥さんがとうとうとしたであろう木の根元には、ヒメオドリコソウやハコベなどが花を咲かせていました。木の根元で眠るには最高の条件じゃありませんか。何よりも、この桜の木には、親父のようなどっしりした存在感がありました。

満開の桜の木の下で、青田川へと伸びた枝を見ながら、私は思いました。落ち込んでいた白鳥さんに「がんばれー」と声をかけたのは、やはり、この桜の木そのものだったのではないかと。

見事なレンゲ畑

吉川区下町で咲いています。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月29日(水)	5月6日(水)
上越南消防署	0.043	0.040
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.057	0.050
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.053

ウドごっつお

10日ほど前にいただきました。天沢ら、さんばい、きんぴら…。ウドは食べないところがないといいますが、ウドのすべてを利用した料理となっていました。この日、一番うまいと思ったのは、ウドの皮のきんぴらです。

